

# 一般質問

## 苦境に立つ公設市場



太陽クラブ 杉田 米男

**問** 八日市公設市場は、民間による指定管理に移行すると決定していたが、3年前に見直され、現在も公設公営で運営されている。

しかし、取扱高は平成3年の71億8千万円をピークに、26年には16億5千万円と減少が続く、このままでは存続が危ぶまれる。

今までにどのような対策を講じてきたのか。

**答** 取扱高が減ってきている理由の一つは、大型スーパー等の進出により、消費形態が変わり、市内の小売店が減少していることが挙げられます。

市場が主体となって、改善・克服することは難しい問題ですが、それぞれの時期に、市場運営委員会において適宜対応をしてきました。

また、卸売業者には、自分たちの最も販売を上

げられる手法をとっていただいています。



日曜市では賑わいを見せるのだが

**問** 2年前から、「おいでやす日曜日」を開催しているが、一過性のイベントであり、市場の活性化には繋がっていない。

通常、市場には一般客は買い物に入れないので、その日だけ色々な物を並べて販売するだけでは市場の活性化には繋がらない。

事業を見直すべきだと考えるが。

**答** おいでやす日曜日は、市民の方に市場で取り扱う品物の新鮮さを知ってもらい、身近に感じていただくことで、各小売店の活性化にも繋がる効果があると考え、来年度も引き続き取り組みます。

**問** こどもの家（学童保育所）の中には、施設が手狭になっている所があり、早急な新築や増築等が必要と考える。

**答** 面積基準を下回る施設や、老朽化が著しい施設を優先して整備します。

27年度は、愛東南、八日市西の改修を完了しており、八日市北、箕作の新・増築にも取り組んでいます。

28年度には、八日市南、蒲生東の増築を予定しており、能登川南、能登川西の新築と、能登川東、愛東北の改修についても、早期実施を検討しています。

## 8020は健康の源



東近江市民クラブ 寺村 茂和

**問** 健康寿命の延伸に向けた予防・健康管理の中でも、歯の健康に係る取り組みが最重要と考える。

国と日本歯科医師会は、平成元年から「80歳になっても20本以上自分の歯を保とう」と8020運動を推進しているが、

①青年期、中年期、高齢期における取り組みは、②集団検診時に歯科健康診査を実施しては、

もし、歯科医師会との調整が難しいのであれば、歯科衛生士によって実施できるのでは。

③保育園・幼稚園・小学校でのフッ化物洗口は、16年度から湖東地区、続いて永源寺地区、蒲生地区と実施されているが、残りの八日市・五個荘・愛東・能登川地区への広がりが進まないのはなぜか。

①かかりつけ歯科医による定期的な検診と自己管理を推進するため、30・40・50・60・70歳の節目年齢を対象に、歯周疾患検診の受診勧奨を実施しています。

**答** ①かかりつけ歯科医による定期的な検診と自己管理を推進するため、

また、口腔の健康を守るために、出前講座や健康推進員による健康教室等に歯科衛生士を派遣して、子どもから高齢者まで様々な年齢に応じた歯

面・衛生面での管理、費用面等があります。

今後、26年12月に施行された「滋賀県歯および口腔の健康づくりの推進に関する条例」に基づき、教育現場における歯科保健事業が安全かつ適切に実施できるよう、関係機関と連携・調整を図っていきます。

子どもからの習慣づけが大切（市原小学校でのフッ化物洗口）



子どもからの習慣づけが大切（市原小学校でのフッ化物洗口）

今後、26年12月に施行された「滋賀県歯および口腔の健康づくりの推進に関する条例」に基づき、教育現場における歯科保健事業が安全かつ適切に実施できるよう、関係機関と連携・調整を図っていきます。